きくたち・わたしたちの合同ワーク

『16歳の教科書2「勉強」と「仕事」はどこでつながるのか』(講談社)という本を紹介する連載企画です。小学校低学年の人には、まだ先の話で、少し難しいかもしれませんが、家の人たちといっしょに読んでみてください。

2時限目　「サイゼリア」でフード産業に革命・正垣康彦

●「誰かのため」だから力が出る

たとえば、きみが「今日は疲れた」ってサボるよね。でも、きみがサボってラクをしたということは、裏を返せば「そのぶん誰かが汗を流してカバーしてくれた」ということなんだ。

そこに気づいた瞬間、真の反省が生まれる。

明日からはもっとがんばって、少しでもその人にラクをしてもらおうと考えるようになる。つまり、それまでの自分を変えていくことができる。

少なくとも僕は、そうやってこの仕事を続けてきた。自分ひとりだったら、絶対ここまでやれてないね。

自分ひとりでなにかができると思ったら、大間違いだよ。みんなといっしょじゃないと、すぐに妥協しちゃうし、本当の反省ができないからね。

●勉強は社会に出て役に立つか?

僕は学校で、経営や経済の勉強をしたことはありません。物理学の世界から、いきなり飲食業のオーナー、つまり経営者という立場になりました。

そんな経験から僕が言えるのは、大きく2つ。

まずひとつは、「勉強は大人になってからでも間に合う」ということ。

そしてもうひとつが、「学校の勉強を通じて身につけた基礎は、意外なところで役に立つ」ということ。

順番に説明しよう。

自分のお店をオープンさせて従業員を雇う立場になったとき、僕が最初に向かった先は本屋さんでした。

新宿の大きな本屋さんに行って、タイトルに「経営」という文字が入っている本を全部買い占めた。ついでに、料理の本も全部買った。

それで経営の本を片っ端から読んでいって、企業のあるべき姿というものを学んでいきました。

どうやったらこの小さなレストランを「産業」にできるか、必死に考えたし、勉強した。自分の意識を、飲食店の店長から「経営者」に切り替えたんだ。

勉強は大人になってからでも間に合うというのは、つまりそういうこと。

さて、産業化の次に考えたのは「世にある料理の中で、今後60年間潰れないジャンルはなんだ?」という問題だった。

ここで、学生時代から好きだった数学や物理の基礎が役立つことになります。僕は、自分の好みよりも、「数学」を優先して考えた。

まず、世界にある飲食店の種類を調べてみる。すると、いちばん普及しているのはイタリア料理と中華料理だった。

でも、このデータだけではどちらを選んだらいいかわからない。そこで今度は、野菜や穀物といった食材レベルで調べていった。

すると世界的にトマトやパスタ、チーズの消費量が伸びていることがわかった。…まさにイタリア料理の食材じゃないか。よし、これで勝負しよう!

こうして、もともとは普通の洋食店だったサイゼリアを、イタリア料理のお店に変えていったんだ。

『16歳の教科書2』(講談社)より一部を改変して引用

この職業を探せ!

前号の正解は、動物園の飼育係でした。

21教室に貼ってある「13歳のハローワークマップ」の中から、次のヒントに合う職業を探してね。正解が分かったら、応募用紙に書いて、名教ポストに入れよう! もちろん、正解者には、ガチャマシンメダルをプレゼント!(正解者多数の場合は、抽選)

ヒント1　現在、女性の人気職業になっている。

ヒント2　カップルの個性的な演出を考案し、予算に見合ったプランをプレゼンテーションする。

ヒント3　ブライダル企業に就職し、先輩のアシスタントをしながら、ノウハウを習得する。

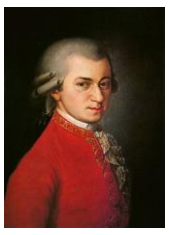
参考・13歳のハローワーク公式サイト
(http://www.13hw.com/)

クラボミュージック

交響曲第４１番「ジュピター」

新年はこの曲で迎えよう!

ウォルフガング・アマデウス・モーツァルト　作曲



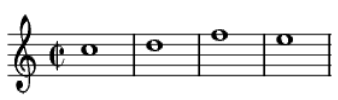
モーツァルト

いよいよ今年もあとわずかになりました。年末年始になるとテレビ・ラジオではその年の締めくくりとしていろいろな音楽番組をやります。ポップス系だと○○歌謡祭や△△歌合戦など。クラッシック音楽の世界でも、前回紹介したベートーベンの第九(合唱付き)の演奏会は年末のイベントになっています。音楽を聞く機会がとても多くなりますね。ヨーロッパやアメリカでも、大晦日のコンサートがあったり、新年を迎えると、「ニューイヤーコンサート」があったりします。なかでも日本人は毎年ウィーンで開かれる「ニューイヤーコンサート」が大好きです。「美しく青きドナウ」というバレエの曲を作ったヨハン・シュトラウス二世とその家族(親・兄弟に作曲家が多い!)の音楽を中心にプログラムが組まれている楽しいコンサートです。全世界に中継されて多くの人が見ています。日本でも元旦に生中継で放送されています。再放送もされますので見たことのない人は一度見てください。

私にとっての新年の音楽はモーツァルトです。一年の始まりは爽やかな音楽でスタートさせたいですね。それにはモーツァルトが最高です。モーツァルトは「音楽の神の化身」だと思います。彼の音楽は、音楽そのものを楽しませてくれます。ベートーベンの人間的な「感動」とは違う、もっと直接心に届く「楽しさ」「美しさ」を感じます。たくさんあるモーツァルトの曲でも、交響曲第４１番ハ長調「ジュピター」が新年のお勧めです。モーツァルトは人生の晩年(といっても３５歳１０か月で亡くなっている)に三つの交響曲を一気に作曲しました。交響曲第３９番、第４０番、そして第４１番「ジュピター」です。第３９番は美しく、第４０番は哀しく、第４１番は壮麗といったふうに全く性格の違う曲を３カ月の間に書き上げました。その中の「ジュピター」は彼が残した最後の交響曲です。「ジュピター」とは、ローマ神話における最高神のこと。モーツァルト自身がつけた名前ではありませんが、曲のスケールの大きさ、荘厳で輝かしい曲想にふさわしいニックネームだと思います。

♪　聴きどころ　♪

第一楽章:序奏なしにいきなり響くドの音の連続と優しいメロディーが続く冒頭のところ。いきなり曲に心をがっちり掴まれてしまう感じです。　第二楽章:まるで歌っているような美しいメロディー。全体を楽しみましょう。　第三楽章:緩やかに下降するメロディーに、トランペットやティンパニーが絡んで壮麗な感じがするところを楽しみましょう。　第四楽章:この曲の白眉です。有名なジュピター音型(ドレファミの４音符)で始まる冒頭部分。途中、いくつかの旋律を絡め合わせる対位法で曲をもりあげ、さらに３重のフーガをとり入れクライマックスを迎えるところ。聴き終わった後に崇高で幸せな充実感が残ります。



ジュピター音型

ちなみに「ジュピター」というと、平原綾香さんが歌った曲も有名です。こちらはイギリスの作曲家ホルストの組曲「惑星」の中の「木星」をアレンジしたもの。これもいい曲ですが、モーツァルトの曲とは別物です。　(手島)